

循環形式について —セザール・フランクのヴァイオリンソナター—

池 田 敦 子

A Study of Cyclic Form —César Franck's Violin Sonata —

Atsuko IKEDA

セザール・フランク（1822～1890）は、ベルギーのリエージュに生まれ、1870年フランスに帰化した。彼は教会のオルガン奏者で、又作曲家でもあったが、晩年に到るまで作曲家としては、あまり一般には知られなかった。代表的な作品は、その生涯の最後の10年間に次々と生まれているが、死の年の1890年に作曲された弦楽四重奏曲で、ようやく広く知られるようになった。

彼は、ワーグナーから半音階的和声に伴う自由な転調を学び、又ベートーヴェンによってなされた精密な形式上の計算は、フランクにおいては循環形式となってあらわれている。ベートーヴェンの最後のカルテット（1826年 op135 F dur）の15年後、1841年には、彼の作品1のピアノトリオ（fis moll）において、ベートーヴェンの示したすばらしい教訓を有効に活用することができたようである。

又彼は、ヴァンサン・ダンディー、デュパルク、ショーソン、ピエルネ等、フランス現代音楽を築きあげるのに重要な役割を果たした多くの弟子たちを育て、約100年にわたったドイツ音楽の遺産を受け継いで、後のドビュッシー、ラヴェルの出現を約束した人である。フランス近代音楽はドビュッシー、ラヴェルで開花するが、重要な作品としてフランクのヴァイオリン・ソナタをあげることができる。

このソナタは、1886年彼が64才の時に作曲され、友人のベルギーの名ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイに結婚祝いとして捧げられた。初演は1886年12月、ブリュッセルで開かれたフランク作品演奏会で、イザイとピアニストのレオンティン・ボルド＝ペーヌ夫人によってなされた。この曲の最大の特徴は、フランク独自の手法である「循環形式」をとっていることである。1楽章の第I主題は、全曲を通じての基礎的楽想になっており、この主題を単に音形上の変化にとどめることなく、そこから精神的な変化を探し出している。

【第1楽章】

ソナタ形式であるが、展開部は他の部分に比べて非常に短く、わずか16小節しかない。全体は次のように分けられる。

提示部	1 ~ 46 (46)
展開部	47 ~ 62 (16)
再現部	63 ~ 107 (45)
Coda	108 ~ 117 (10)

1) 提示部

第I主題

- 次の3つの部分に分かれ、a, b, c, dの重要な部分動機が含まれている。

The musical notation shows the first theme in G major (two sharps) and 2/4 time. The first staff contains measures 1-4. Motif 'a' is indicated by a bracket over measures 1-2, and motif 'b' by a bracket over measures 3-4. The second staff contains measures 5-8. Motif 'c' is indicated by a bracket over measures 5-6, and motif 'd' by a bracket over measures 7-8. Roman numerals I, II, and III are placed below the first, second, and third measures respectively.

- a …… 3度の上行及び下行
- b …… 分散和音の上行形
- c …… 分散和音の下行形（間に増1度を挟む）
- d …… 主題の終止であり，上行形

- 和声……… V_9 にIIが含まれており，それが旋律の特徴になっている。

The notation shows a G major V9 chord with a second inversion (II) indicated by a bracket.

The notation shows the harmonic progression of the first theme in G major, with Roman numerals V_9 , II, V_9 , and I.

推移……動機が次のように配置されている。

c, d, a', d', a', d', a, b, a, b, b, b。

主題と同じ密度で第Ⅱ主題へ移行している。

第Ⅱ主題……ピアノパートにおいてのみ現れており，原則通り属調から始まっている。

又，次の様な近代的転調が行われている。すなわち，最初2小節単位のフレーズで，次に1小節単位で転調し，嬰へ短調に到達している。

E: I °V₉ G: I V₉ I °V₉ B: I

°V₉ Des: I b:°V₉ Des: I b:V₉ fis: I²

II₇ V₇ I

2) 展開部

わずか16小節しかなく、次の様な流れになっている。

- 1～4小節……動機aのヴァイオリンとピアノによるカノン。

Musical score for measures 1-4. The key signature is two sharps (F# and C#). The Violin part (Viol.) and Piano part (Piano) are shown. Motif 'a' is indicated by a bracket above the Violin part in measure 1 and above the Piano part in measure 2. The Violin part starts with a quarter rest in measure 1, and the Piano part starts with a quarter rest in measure 2. Both parts end with a fermata in measure 4.

- 5～8小節……動機aの頭部のヴァイオリンとピアノによる組合せ。

Musical score for measures 5-8. The key signature is two sharps (F# and C#). The Violin part (Viol.) and Piano part (Piano) are shown. Motif 'a' is indicated by a bracket above the Violin part in measure 5 and above the Piano part in measure 6. The Violin part starts with a quarter rest in measure 5, and the Piano part starts with a quarter rest in measure 6. Both parts end with a fermata in measure 8.

- 9～13小節……動機aがヴァイオリンからピアノに引き継がれる。
- 14～16小節……ピアノにe（第Ⅱ主題）が1回現れる。

Musical score for measures 14-16. The key signature is two sharps (F# and C#). The Piano part (Piano) is shown. Theme 'e' is indicated by a bracket above the Piano part in measure 14. The Piano part starts with a quarter rest in measure 14 and ends with a fermata in measure 16.

3) 再現部

古典的ソナタと同じ構造で第Ⅰ主題、第Ⅱ主題ともに原調であり、第Ⅱ主題の後、ヴァイオリンに第Ⅰ主題が、ピアノに第Ⅱ主題が交互に現れ、Codaへとつづく。

4) Coda

10小節であり、第Ⅰ主題を利用している。

[第2楽章]

ソナタ形式であり、次の様に分けられる。

提示部 1～79 (79)

展開部 80～137 (58)

再現部 138～201 (64)

Coda 202～229 (28)

1) 提示部

第I主題

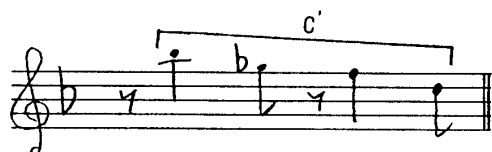
3小節の序奏の後、まずピアノにより第I主題が奏され、ただちにヴァイオリンに受け継がれる。

この主題は、第I楽章の循環動機a, b, cが応用されている。

The musical notation illustrates the first theme of the second movement. It is presented in three staves. The first staff shows the initial theme in C major, with motifs 'a' and 'b' marked. The second staff continues the theme with motif 'c'. The third staff shows the theme in D major, with motifs 'a', 'b', and 'c' marked, and is labeled '第1楽章' (First Movement).

続いてピアノに動機d'及びc'が現れるが、この動機d'もやはり第1楽章のdの応用である。

The musical notation shows motif d' in C major, presented in a single staff with a treble clef and a 7/8 time signature. The motif is marked 'd'.



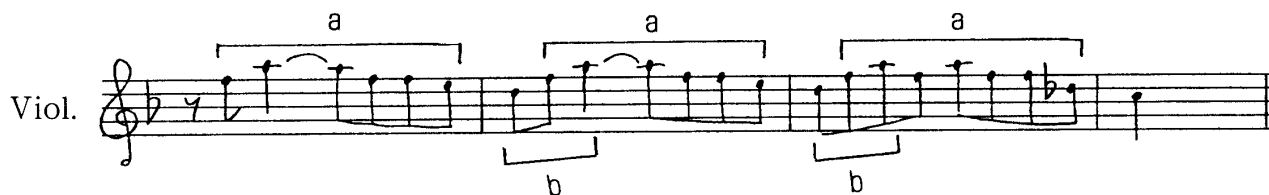
次にヴァイオリンに循環動機 a, bによる旋律が現れる。



確保……最初と同じAの音から始まるが、すぐに転調して、再び原調に戻っている。

また、第Ⅱ主題直前の4小節は、動機 a, bが応用されている。

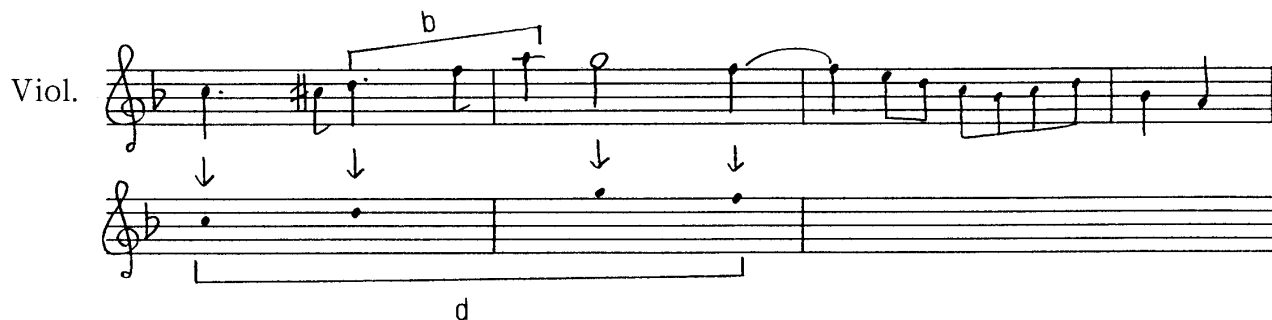
この音形は、第4楽章にも用いられており、重要なものである。



第Ⅱ主題…… 2つの部分に分かれている。

• 第1部

動機 b, dが骨格になっており、またピアノパートのバスは順次下行している。原則通り平行調 F durで始まり、A durで繰り返される。



• 第2部

やはり動機 d が応用されており，3度上で繰り返される。

終止……F durの主音上に新しい動機 f が示される。2回目は簡単な変奏を行っている。

2) 展開部……3つの群に分かれている。

• 第1群……次の様な4つの小部分で構成されており，最初の2つの部分は，展開部の序奏的性格をもっている。

① 動機 d

② 終止の動機 f

③ 動機 d 及び a' (a の後半の反行形) + b'

Musical score for Violin and Piano. The Violin part features a melodic line with a bracket labeled 'a'+b'' spanning across several measures. The Piano part has a bass line with a bracket labeled 'd' under the first few notes.

④ 動機 a の拡大及び f

Musical score for Violin and Piano. The Violin part has a melodic line with a bracket labeled 'a' above it. The Piano part has a bass line with a bracket labeled 'f' under the first few notes.

- 第2群……第I主題と動機 a' + b' (第1群の③) の展開で、1回目はcis moll, 2回目はgis mollである。

Musical score for Piano and Violin. The Piano part is labeled '第I主題' (First Theme) and shows a melodic line with a bracket above it. The Violin part shows a melodic line with a bracket labeled 'a'+b'' above it.

- 第3群……第Ⅱ主題の第1部が1回目はFis dur, 2回目はEs durで現れ, 続いて第Ⅰ主題の頭部と第Ⅱ主題の後半を対位的に組み合わせている。

Viol.

Piano

第Ⅱ主題後半

第Ⅰ主題頭部

- 属音のペダル……原調の属音Aの音が, ピアノの右手に現れている。

3) 再現部……提示部と全く同じ構造である。第Ⅱ主題は原則通り同主調のニ長調である。

4) Coda……2つの部分に分かれている。

- 第1部……まず最初に, ピアノに動機b及び第Ⅰ主題が現れ, 16小節目からはヴァイオリンに第Ⅱ主題直前の旋律及び動機aの下行形が現れる。

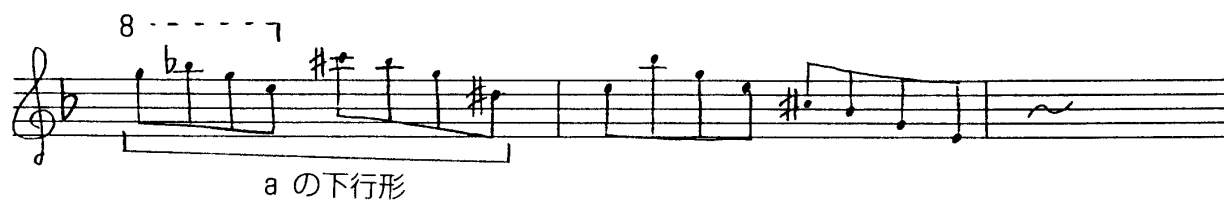
b

第Ⅰ主題

a

b

第Ⅱ主題直前の旋律



- 第2部……第Ⅱ主題の第2部と動機aの反行形が現れる。



第3楽章 Recitativo-Fantasia

自由な形式で書かれており、全体は5つの部分に分けられる。第2楽章の最後の和音から始まっている。

- 第1部 1～52 (52)
- 第2部 53～92 (40)
- 第3部 93～100 (8)
- 第4部 101～110 (10)
- 第5部 111～117 (7)

- 1) 第1部……ピアノとヴァイオリンによるレチタティーヴォが3回繰り返される。

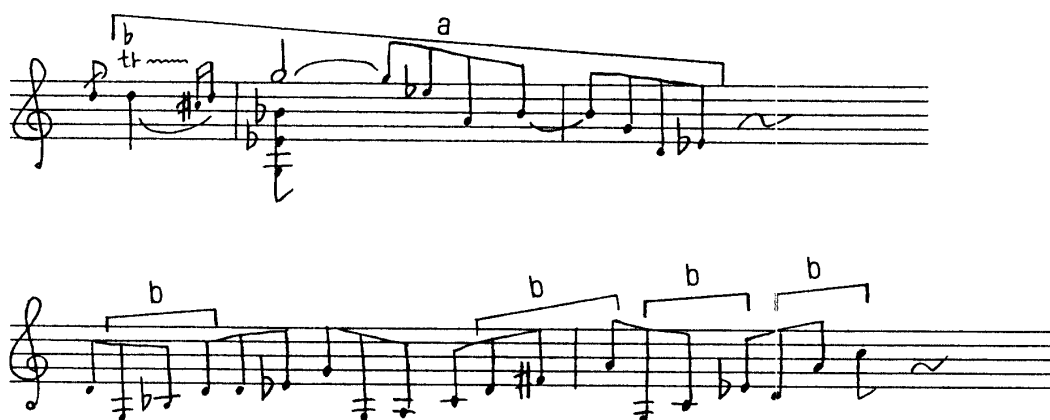
- 1回目

まず、ピアノに循環動機aが現れる。和声は次の様に、g mollの属音の保続音上に半音階的連結を行っている。



g:V₇ a:V₉ B:V₉ I c:II F:V g:V

次に、ヴァイオリンによる動機 a, b。



ピアノによる動機 a, b。

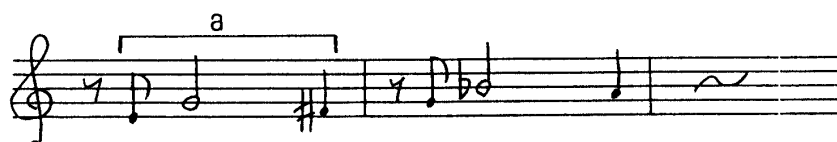


続いて、ピアノに a, ヴァイオリンに e (第1楽章の第II主題), この2つが組み合わされている。

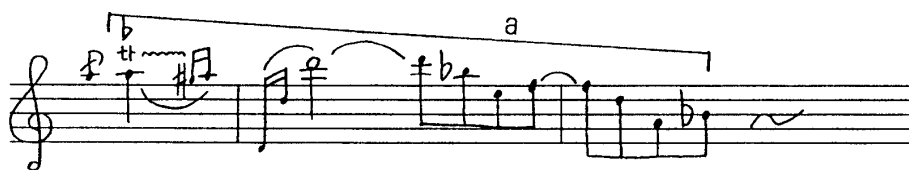


• 2回目

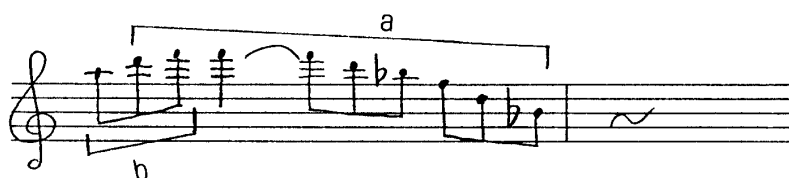
1回目同様にまず、ピアノに動機 a が現れる。和声は d moll の属音の保続音上に展開されている。



1 回目同様，ヴァイオリンによる動機 a， b。



ヴァイオリンに動機 a， b。

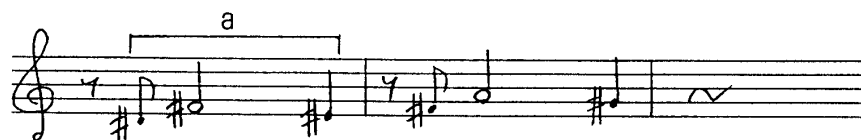


ヴァイオリンに動機 b。

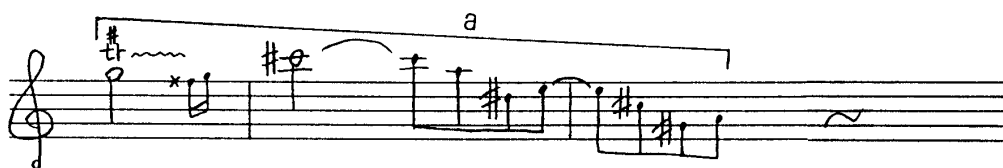


• 3 回目

cis mollの属音の保続音Gisの上に動機 a が現れる。



ヴァイオリンに動機 a。

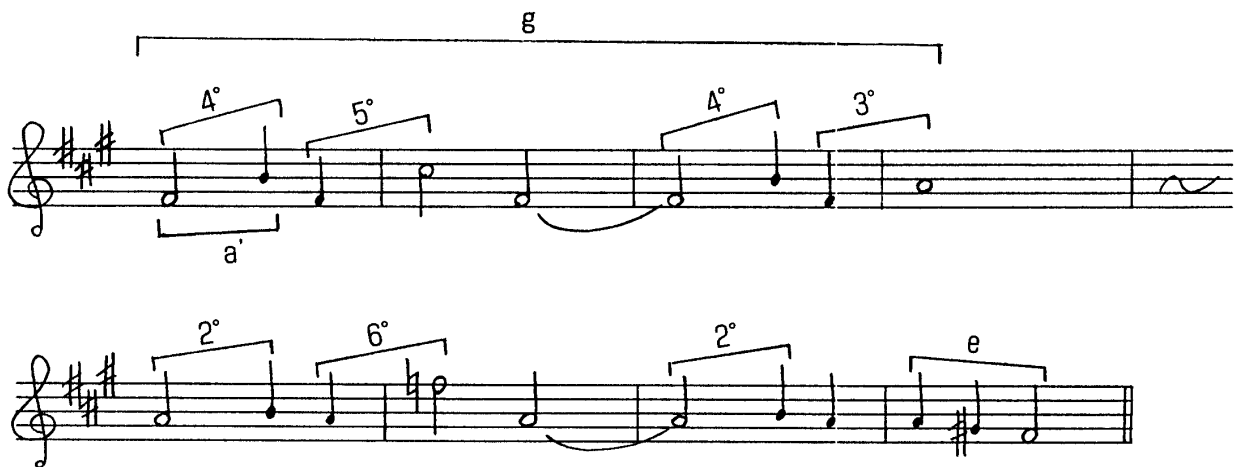


2) 第2部……ヴァイオリンに3つの異なる旋律が示される。

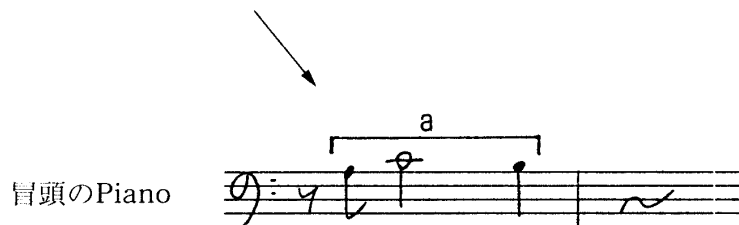
① 動機dを用いた旋律。



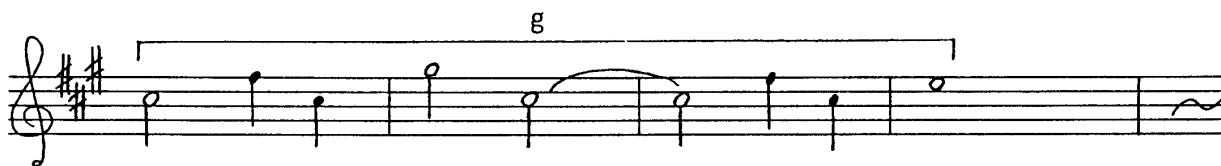
② 新しい動機gが現れるが、これは、動機aの音程が拡大されたものが組み合わされてでき
ており、第4楽章にも用いられている。



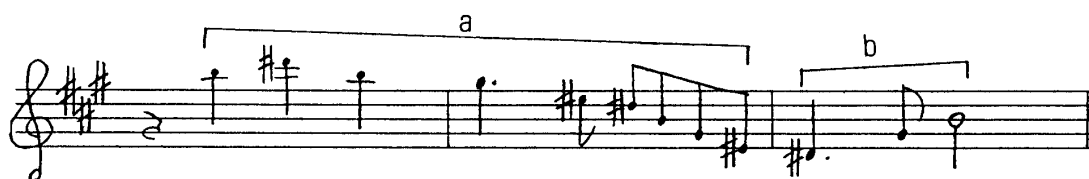
③ 動機hが現れるが、これは動機aの反行であり、冒頭のピアノの部分と一致する。このh
も、g同様第4楽章に用いられている。



再び動機 g が、完全 5 度高く移調されて現れる。



3) 第 3 部……ヴァイオリンに循環主題（第 1 楽章第 I 主題の動機 a, b）が現れ、第 4 部直前に、ピアノに動機 e（第 1 楽章第 II 主題）の拡大が応用されている。



4) 第 4 部……第 2 部の新しい動機 h が、完全 4 度高く移調されてヴァイオリンに託されている。

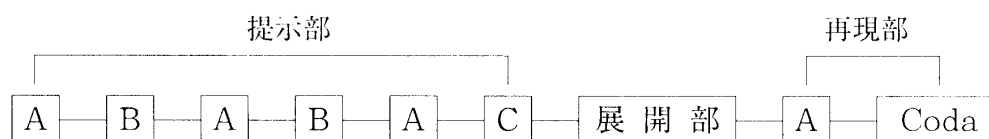


5) 第 5 部……動機 e 及び a を用いて、この楽章を締めくくっている。



【第 4 楽章】

ロンドソナタ形式であり、ロンド主題とその展開、及び第 3 楽章までに現れた素材が用いられている。全体は次の様な構造になっている。



A ^①	1～ 37 (37)							
B ^①	38～ 51 (14)							
A ^②	52～ 64 (13)							
B ^②	65～ 78 (14)							
A ^③	79～ 98 (20)							
C	99～116 (18)							
展開部	117～184 (68)	<table> <tr> <td>第1群</td> <td>117～142 (26)</td> </tr> <tr> <td>第2群</td> <td>143～169 (27)</td> </tr> <tr> <td>第3群</td> <td>170～184 (15)</td> </tr> </table>	第1群	117～142 (26)	第2群	143～169 (27)	第3群	170～184 (15)
第1群	117～142 (26)							
第2群	143～169 (27)							
第3群	170～184 (15)							
A ^④	185～221 (37)							
Coda	222～242 (21)							

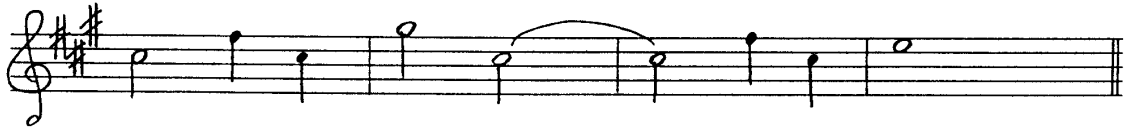
1) 提示部

A^①……ピアノとヴァイオリンによるカノンで始まる20小節にわたるこのロンド主題は、循環動機aを応用している。イ長調で始まり、2回反復される。

B^①……ピアノに、第3楽章第2部のgが現れ、4小節単位で3度ずつ上に転調している。すなわち、D dur → fis moll → A dur → cis mollと移っていく。

A^②……原調の長3度上のCis durで、ロンド主題によるカノンが、ここではヴァイオリン先行で示される。

B²……第3楽章第2部の旋律gがヴァイオリンに現れ、1回目同様4小節単位で3度ずつ上に転調している。すなわち、fis moll → a moll → C dur → e mollになっている。



A³……原調の属調E durで、3回目の Rond主題が現れる。1回目同様ピアノ先行の4拍追拍のカノンになっているが、ここでは主題がバスに置かれている。

Viol.

Piano

また後半は、2拍追拍のカノンになっており、Codaにも用いられている。

この音形は、Rond主題の次の2つの素材を応用したものである。

C……第2楽章第II主題直前の旋律が現れる。バスにはE durの主音の保続音が置かれている。

2) 展開部…… 3つの群に分かれている。

- 第1群……最初は、ヴァイオリンとピアノによる Rond主题前半（1， 2小節）の展開であり，途中からピアノのバスで Rond主题後半（3， 4小節）を展開している。

Viol.

Piano

逆行

Piano

- 第2群……ヴァイオリンで第3楽章第2部の旋律 h を，ピアノで Rond主题後半（3， 4小節）を交互に展開している。

Viol.

Piano

- 第3群……第3楽章第2部の旋律 g と Rond主题後半（3， 4小節）を，ヴァイオリンとピアノで組み合わせている。

Viol.

Piano

3) 再現部

A³……原調A durでロンド主題の再現を、A¹同様にピアノ先行で行っている。

Coda……提示部A³で用いたロンド主題によるカノンで、ここでも2拍の追拍であり、迫力あるCodaで曲は終わる。

Viol.

Piano

[1997年11月29日受理]